

第5次地域福祉活動計画推進委員会(第2回) 会議の概要

〈日 時〉平成29年10月16日(月) 13時30分～15時30分

〈場 所〉市社協 第2会議室(市立総合福祉会館2階)

委員長あいさつの後、次第に沿って進行した。

1 第5次地域福祉活動計画推進委員の交代について

資料に基づき事務局から、説明した。

2 第5次地域福祉活動計画書(案)の概要について

3 第5次地域福祉活動計画書(案)への意見聴取

資料に基づき事務局から、一括で説明した。

説明後、委員長から出席委員に意見・質問等を求めたところ、次の発言があった

(委員長)

これから、委員のみなさんへの第5次地域福祉活動計画書(案)への意見聴取を行う前に、少し説明の補足をすると、5次の計画は、4次計画の基本的な考え方を、そのまま引継ぐとしており、今回の計画書(案)では内容の更新、変更したところが赤字になっている。その4次の計画の考え方について確認すると、3次の計画は、良いものではあったが、課題に対して取り組みが繋がっておらず、わかりにくい部分があったため、体系図を見てもらうとわかるが、4次計画では課題から取り組みまでを一連にしており、流れが分かりやすくなるような構成にしている。また、1ページにある取り組み主体について、市民、福祉施設・関係機関、市社協、市の4者としており、市社協は全体の調整役、市は後方支援の役割を担うとしている。

5次の計画も、この考え方を意識した計画のつくりになっている。

(委員)

計画書(案)5ページからの課題の「こんな声がありました」と「活動ヒント集」の、言い回しが同じなのが気になる。「こんな声がありました」はこれでよいが、「活動ヒント集」は具体的に提案するような書き方がよい。また「課題キーワード」の整理が必要ではないか。例えば5ページであれば「前向きな生活」は課題かということである。言葉が足りないように感じる。

(委員)

課題の「こんな声がありました」と「活動ヒント集」が対応しているほうが、わかりやすいのではないか。

(委員)

同じ感想を持った。同じようなことが並んでいて、どう読んでいいかわからない。以前、町内会の役員をしていたことがあるが、地元の地区社協は、誰が、どこで、活動しているのかわからなかった。「わたしたち」の実際は、民生委員や社会福祉推進委員が中心となった活動になるのだろうと思うが、住んでいる住民が知らない。担い手とは誰か。計画のターゲットは誰なのか。より大勢の担い手を、どのように集めればよいのかが課題となる。

(事務局)

計画書をどのように PR していくかは大切なところと考える。地域福祉活動計画では、生活者としての生活課題は、課題の1から4、地域福祉活動をしていく中での地域福祉活動課題は、課題の5から7と主体をわけた構成になっている。地域福祉活動を担っている人に限らず、住民一人ひとりに広まることが目標となる。

(委員)

高齢・障害・児童等を等でまとめず、それぞれ列記したほうが良い。

地域と行政関係とのつながぎをしている民生委員、社会福祉推進委員、障害福祉相談員などがあるが、それぞれの方の役割を記載していったらどうか。

(委員)

民生委員は個別支援が一番の仕事で、地区社協は、民生委員や社会福祉推進委員が協力をして地域を良くするよう事業支援を主に行っている。5から7は主に地区社協が担っており、計画を参考に、その地域が一番困っている所を考え、優先順位をつけて取り組めると良い。そのためにも、いろいろな団体が協力していけるよう、よりわかりやすいものにする必要がある。

(委員)

4次の計画は地域の声を多く拾っており、施設の声や期待というのは、あまり無かった。地域福祉の課題を施設も共有し、地域の一員としての役割を果たすには、日頃から関係を持ち、課題を学ぶ機会が必要となる。施設としては、手が出しづらいところもあるかもしれないが、積極的な関わりが出来たらと考えている。

(委員)

地域が行事などを行う際、施設にも参加してもらいながら関わりを持ち、地域の人たちも施設の中を知ることで相互交流が出来るようになる。そうすることで少しずつ歩みよることが出来ている。

(委員)

単発の行事などでの関わりはあるが、日頃からの近い関わりがあれば、施設の、その地域の

なかでの日常的な課題や役割が意識出来る。

(委員長)

施設が、自分の地域との連携、課題を共有出来るよう、積極的に関わられるような項目を意識的に計画に入れられると良い。

(委員)

地域と医療の連携が叫ばれているが、福祉、医療、教育の連携を入れる必要があるのではないか。キーワードを検討し、載せてみてはどうか。

(委員長)

方向性としては、医療機関も関係団体に入ってきて良い。

(委員)

計画書(案)1ページ「活動計画の取り組み主体」「地域のみんな」の中に病院の記載があるが、病院より広義となる医療機関とした方が良い。また、関係機関とあるが、関係機関とはどのようなところか。医師会、歯科医師会、薬剤師会も関係機関であり、薬剤師会の健康サポート薬局等もある。

(委員)

計画書(案)5ページからの課題の「こんな声がありました」から、キーワード、目標、「活動ヒント集」までに、ストーリー性があるとわかりやすい。ストーリー性がないと課題から、目標までがつかない。また、事例となるヒント集には、どこの地区で行っているか記載すると良いのではないか。計画書を読んだ人が、「この地区に聞いてみよう」となれば良い。個別目標に、市社協の取り組み方向があるが、抽象的でわかりにくい。行動計画をつくりながら、どんなサポートをするのが具体的に示せると良い。

(委員)

同じ感想を持った。課題と目標、活動のヒントが具体的でない。「活動ヒント集」には、どうすれば解決できるか、取り組めるように記載して欲しい。あわせて実際に活動している地区名を紹介したほうが良いと考える。また、個別目標にある市社協の取り組みは、これから出てくるものと考えて良いか。

(事務局)

行動計画は別途作成し、第4回に報告する予定になっている。市社協の取り組み方向については、市社協内で内容を整理したい。

(委員長)

課題ごとに市社協のスタンスが書かれているとよい。市社協の取り組み方向を行動計画の柱とすればよい。

(委員)

成功事例が書かれていると「こうすれば良いのか」とわかる。また、課題も見方、やり方によってはヒントになるという視点から、もう少し表現を検討してみてはどうか。山坂階段とうまくつきあって健康を維持している人がいるというヒントがあるが、それよりも、そうした地域の空き家で県大生に住んでもらう活動がある等、もっと説得力のある事例にしたほうが良いのではないか。

(委員)

地区社協と一言でいうが、規模も、それぞれ大きく違い、活動の規模も雲泥の差がある。大きいところ、小さいところは、第4次計画で言われている課題への成果はどうなっているのか。また、社会福祉推進委員の欠員が多くなっており、担い手不足は大きな課題といえる。社会福祉推進委員のなり手が、地域で見つからない。この計画では、あまり地域運営協議会に触れていないが、関わりはどうなるのか。

(委員)

保護司も高齢化しており、なり手もない。団塊の世代への働きかけをどうするか。また、この計画には、社協と町内会・自治会の関わりが書かれていない。更正保護の分野でも連携という考え方が始まっている。どこも同じ課題となっているので、これを解決する市の機関などを、まとめ、記載してもらえるとよい。

(委員長)

横須賀市の社会教育委員というのを別に受けているが、そこでの例として、社会教育で地域のコミュニティセンターで実施している講座の3割くらいは、福祉がテーマになっている。生活課題・活動課題と同じことを議論している。地区社協と一緒に企画し、受講者が、活動者になってもらえるような取り組みをすることが出来ればと思う。行政はどうしても縦割りになるが、横割りで出来るよう、福祉分野から仕掛けて巻き込めると良い。そのなかで、市民だけでは難しいものについて、市が支援するということが出来ると良いのではないか。

(委員)

障害者の通所施設では、30代の利用者の同居している親の多くは後期高齢者になる。入所施設はもっと深刻で、入所者の親が高齢化している。今後の対応として、グループホームでの生活に移行していくのが一つの考え方だが、地域にグループホームを建てるのが難しく、担い手もない。朝夕の生活を地域の方に支えてもらえたらという思いがある

また、計画書(案)5ページの「こんな声がありました」に障害者福祉とあるが、「者」をとって欲しい。9ページの「こんな声がありました」に精神障害だけではなく、身体や知的、発達障害を入れて欲しい。

(委員長)

今の話に関連することで、知人が、使用していない家があったので、障害者のグループホームにしたいと、市に相談したところ、その地域には、横須賀市と地域との協定があつて施設を建てられないとのことだったという。グループホームは施設かどうかという議論もあるが、その地域で、障害者が親と暮らすのはオーケーだが、グループホームはダメということになっている。グループホームは、普通の家と施設のあいだのような位置づけになろうかと思う。こうした部分でも、地域の人意識が変わってくると状況が解消し、地域の中で受け止めるような雰囲気醸成されるのではないかな。

(委員)

現段階で未稿となっている「はじめに」の部分に入ってくるのかもしれないが、国の基本方針である「我が事・丸ごと」を入れ込む必要があるのではないかな。

(委員長)

個別、具体的でなくてよいので、支援を必要とする人々が地域社会の中で暮らしていけるように取り組むという考え方に触れておくと、「我が事・丸ごと」の理念を取り込んでいることになるのではないかな。具体的な地域課題から、どう解決していくのかが計画から読みとれるとよい。

(委員)

計画書(案)5ページの「こんな声がありました」では「階段の課題」をクローズアップしていて、6ページの「活動ヒント集」でも多く取り上げているが、バランス良く取り上げたほうが良いのではないかな。10ページの市社協の取り組みの方向の意味がわかりづらい。13ページの「65歳まで定年延長」としてしまうのは、そうではないところもあるので、問題があるのではないかな。14ページに「キャラクターの焼き印入りお菓子」とあるが、著作権等もあるので慎重に扱ったほうが良い。19ページに自助・共助・公助とあるが、今は自助・互助・共助・公助ということが多い。「互助」を入れたほうが良いのではないかな。

(委員)

定年延長ではなく、雇用延長としてはどうか

(委員)

計画書(案)5ページの「こんな声がありました」に「虐待に悩む母親」とあるが、地区懇談会での意見だとは思うが、平成25年にこども育成部で行ったアンケートでは出てこない。記述の検討をして欲しい。10ページの「活動ヒント集」にある、さりげない見守りについては、介護者に限らないような記述にしたほうが良い。また、このヒントを6ページに移動させるか、再掲しても良いのではないか。17ページの地域がつながりを持ちたい関係者のなかに、母親クラブがあるが、現在、市域での活動が主となっているため、ここでの記述はあったほうが良いか。

(委員)

計画書(案)17ページに、「民生委員・児童委員だけでは受け止められず」とあるが、「民生委員・児童委員の負担が重くなっている」くらいの記述にしたほうが良いのではないか。

(委員)

運動ではなく活動と表現を改めてはどうか。また、「やってみよう」といったような呼びかけの表現にしてはどうか。

(委員)

計画書(案)19ページの「横須賀市による支援」のところだが、「地域福祉計画と車の両輪として」との記述を入れたい。

(委員)

自地区の地域運営協議会でも福祉の大切さを感じている。これまで地域福祉は、専門的な分野なので、民生委員や地区社協にまかせておけば良いという考えがあったが、やはり、みんなで考えていくとしていかなければいけない。自地区には「お助け隊」の取り組みも出てきており、地域福祉が推進していると感じている。町内会・自治会でも福祉について考える場が必要と考える。勉強会を開いてもらいたいと思う。

4 今後のスケジュールについて

5 その他

資料に基づき事務局から、一括で説明した。

今回の検討事項について、11月末まで意見を受け付けることを連絡、依頼した。

次回開催日の日程調整を行い、12月25日(月)13時30分から開催されることとなった。

場所は、市社協第2会議室が工事予定のため、市立総合福祉会館内の別の会議室で調整することとなった。

以上、推進委員会(第2回)を終了し、散会した。